

～株式投資で勝つ方法～ ―エライ人の金言編―

その1 ウォーレン・バフェットに学ぶ (全4回)

2005/04/15 太田寿一

第1回 ウォーレン・バフェットってどんな人？

株式投資に関心をもつアメリカ人で、ウォーレン・バフェット Warren Buffett の名前を知らない人はまずいません（日本人はあんまり知らないかも）。今年で 74 歳になるこの老賢人は、アメリカの長者番付であるビル・ゲイツ（マイクロソフト会長）に次ぐ第2位の資産を有する億万長者です。総資産額はおよそ440億ドル（!）で、クウェートの国内総予算を上回るとか上回らないとか。おそらく投資家としては歴史上最も成功した人物でしょう。

ウォーレン・バフェットは 1930 年 8 月 30 日にネブラスカ州オマハで生まれました。父のハワードは証券業者にして保守党の下院議員でした。少年時代のバフェットは、成功した企業家がそうであったように小さい頃からその商才を如何なく発揮していました。彼はワシントンポストとワシントンタイムズ／ヘラルドの新聞配達のアルバイトをし、それで貯めたお金でピンボールの機械を買い、それを散髪屋に置いてもらうことによって、週に 50 ドルを稼いでいました。また、友人と共同でロールスロイスを 350 ドルで購入し、それを 1 日 35 ドルで貸し出してもいました。こうして 16 歳で高校を卒業したとき、彼の貯金は 6000 ドルにまで増えていました。

バフェットはネブラスカ大学 4 年生のときにベンジャミン・グレアムが書いた「賢明なる投資家」を読みます。これに強い感銘を受けたバフェットは卒業後、グレアムが教鞭をとるコロンビア大学のビジネススクールに進学し、直接教えを受けます。コロンビア大学を卒業したバフェットは、グレアムの下で働くことを申し出ます。無給でもいい、という熱心な申し出でしたが、そのときは断られました。こうしてバフェットは一度オマハに戻ります。

ですが 1954 年にグレアムの誘いを受けてニューヨークのグレアム・ニューマン社に入社します。グレアム・ニューマン社は 1956 年には解散します（グレアムが引退するため）が、彼の下でみっちり修行したバフェットはオマハに戻り家族や友人たちから資金を得て投資ファンドを設立しました。このファンドはゼネラルパートナーのバフェットと 7 人の有限責任パートナーからなるもので、有限責任パートナーは毎年 6 % の配当と利益の 75 % の配分を受けるという契約でした（残りの 25 % がバフェットの取り分）。このファンドは 13 年間で 29.5 % ものパフォーマンスを上げ、パートナーたちに莫大な利益をもたらしました。また当初は 10 万 5000 ドルだったファンドの資産は、1965 年には 2600 万ドルにまで膨れ上がっていました。

ところが1969年、バフェットは投資ファンドを解散することを決めます。理由は、株式市場があまりにも“盛況だったから”です。というのも、彼の投資手法が大幅に過小評価されていた銘柄を買う（バリュー株投資）というスタンスであり、その方法は、ボロ株までもが高値で取引されるような市場では有効な手法ではなかったからです。

こうしてファンドは解散され、出資者は出資分に応じた現金を受け取りました。また、バフェット自身も2500万ドルを稼ぐことに成功しました。バフェットはこの資金を用いて、繊維会社のバークシャー・ハサウェイの経営権を取得しました。バフェットはこの後、バークシャー社を通じていくつもの会社を買収していきます。

バークシャー・ハサウェイは長年赤字経営を続けていましたが、実際の資本は相当有しているいわゆる典型的な割安株でした。ですが本業の繊維業はバフェットが奮闘したもの的一向に立ち直りの気配を見せず、結局は繊維事業から撤退します。しかし、ここから“持ち株会社”としてのバークシャー社の躍進が始まります。

バークシャー社は保険会社を皮切りに、新聞社、製菓会社、家具販売会社、宝石店、辞書出版社、電気掃除機販売店などを買収しました。これらはバフェットの予想通り多くの利益を上げました。買収した会社の利益を用いて、新たに会社を買収する、このような倍々ゲームを繰り返し、遂にはワシントンポスト、コカコーラなどの超優良銘柄を大量保有することに成功しました。これらの会社はバフェットの思い描いていた通りの超優良企業で、これらの会社の株を売ることは決してない、と公言しています。

現在でも経済・金融界でのバフェットの影響力は絶大で、彼が書いたバークシャー社の年次報告書を読むためだけに多くの人たちがバークシャー社の株を買います。また、株主総会では、スピーチ自体はほんの二言三言ですが、質疑応答が3時間にも渡るほどです。バフェットは自身の資産のほとんどを財団の形で残しており、子供たちへの贈与はほとんど行っていません。バフェットの財団が将来世界でも最大級の規模になることはほぼ間違いないでしょう。

◇蘊蓄コーナー◇

- ・バフェットの好物はハンバーガーにコカコーラで、いわゆる“庶民派”。アメリカの成金にありがちな、ヨットや別荘は持っていないらしい。
- ・バフェットは何とホームドラマに出演している！ABC放送の「All My Children」に91年と93年の2度出演したそう。日本でいうなら、孫さんや三木谷さんが「渡る世間は鬼ばかり」に出るような感覚なのかも？

参考文献 「マネーマスターズ列伝～大投資家たちはこうして生まれた」（2000）

ジョン・トレイン（著）、坐古義之・白杵元春（訳）、日本経済新聞社

「株で富を築くバフェットの法則」（1995）

R・G・ハグストロームJr（著）、三原淳雄・土屋安衛（訳）、ダイヤモンド社